

木材の需給見通しについて

令和 7 年 2 月

林野庁

目次

- 1 事業者が需給見通しの判断に活用した情報**
- 2 国産原木の供給等見通し**
- 3 国産材製品の供給等見通し**
- 4 木材流通事業者における需要見通し**
- 5 木材利用事業者における需要見通し**
- 6 苗木の供給見通し**
- 7 木材需給の動向や見通しに関する地区別協議会構成員からの主な意見**

木材の取引実態に関するアンケート調査の概要

- 本資料は、国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会の地区別協議会構成員を対象に実施した、木材の需給見通し等についてのアンケート調査の結果をとりまとめたもの。
- 見通しの指標はアンケート結果から算出した参考情報であり、実際の需給動向を保証するものではないことに留意。**

■ 調査対象及び回答者数

「令和6年度 国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会」地区別協議会構成員のうち、
素材生産事業者、木材加工事業者、木材流通事業者、木材利用事業者、苗木生産事業者：266者のうち、
回答者数 162

素材生産事業者 17、木材加工事業者 47、木材流通事業者 51、木材利用事業者 27、苗木生産事業者20
※ 回答者の申告に基づく分類。複数業種を行っており、1者が複数回回答している等の場合、個別の事業者として集計。

■ 調査項目

(1) 事業者が需給見通しの判断に活用した情報

(2) 事業種別の令和6年12月現在の状況から今後3か月程度の見通し

- ① 素材生産事業者：原木の伐採量、出荷量、販売価格
- ② 木材加工事業者：木材製品（製材品、集成材、合板・LVL、チップ）の出荷量、販売価格
- ③ 木材流通事業者、木材利用事業者：原木・木材製品の入荷量、仕入価格
- ④ 苗木生産事業者：苗木供給量

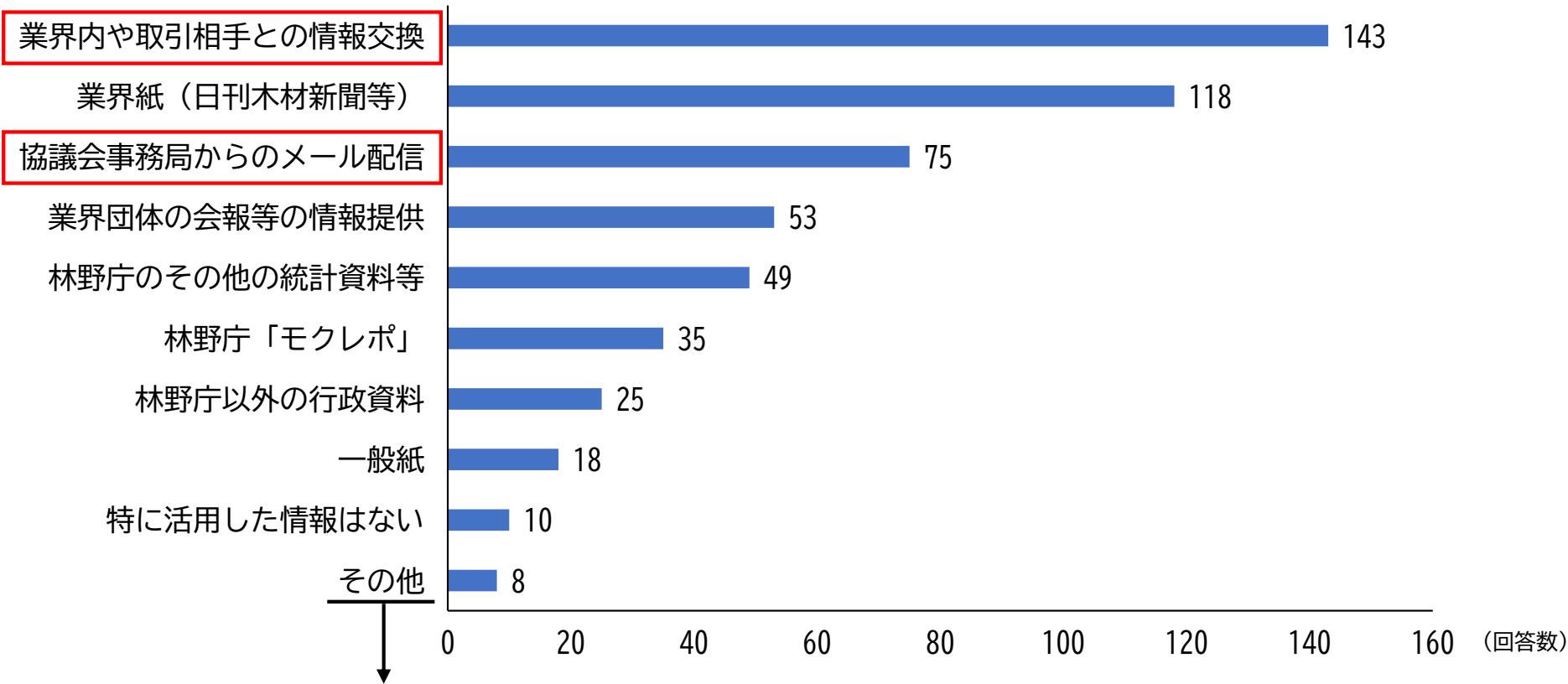
■ 見通しの指標の考え方

- 量、価格に関する回答について、「増加・上昇」を2点、「やや増加・やや上昇」を1点、「横ばい」を0点、「やや減少・やや低下」を-1点、「減少・低下」を-2点とし、各回答数を母数として加重平均を算出
- 当該項目の指標は、算出した加重平均Xについて以下のとおり設定

加重平均X	$X < -1$	$-1 \leq X < -0.5$	$-0.5 \leq X \leq 0.5$	$0.5 < X \leq 1$	$1 < X$
指標	減少・低下	やや減少・やや低下	横ばい	やや増加・やや上昇	増加・上昇

1 事業者が需給見通しの判断に活用した情報

- 事業者の多くが、業界内や取引相手からの情報を重視。
- 本協議会で実施している需給情報等に関するメール配信も一定程度活用されていた。



「その他」の主な内容

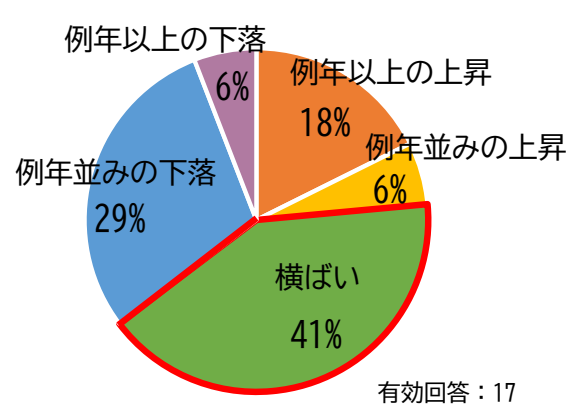
- ・市場の状況
- ・直接の取引相手以外からの情報(木材利用事業者にとっての素材生産事業者等)
- ・輸入材の在庫量推移
- ・地域の需給会議
- 等

有効回答：526（1者につき3つまで回答可）

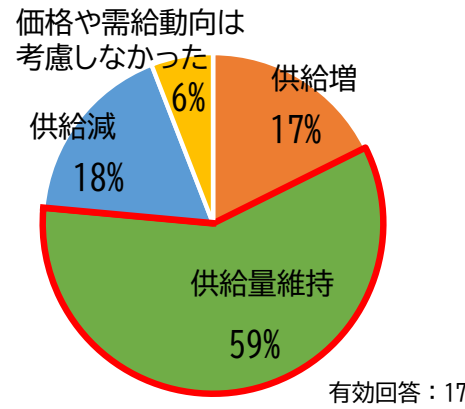
2 国産原木の需給見通し (1) 直近3か月の原木供給に影響を与えた要因

- 素材生産事業者の直近3か月における原木価格動向に対する所感については、「横ばい傾向」が最も多い41%であったが、「上昇傾向」は計24%、「下落傾向」は計35%と、他の所感との差は小さかった。地域別では、東北以北は下落傾向、関東以南は上昇傾向の所感が多い傾向にあった。
- 直近の価格動向を踏まえた供給方針としては、「供給量維持」が最も多かったが、実際には、約1/3の者は方針どおりの供給ができなかった。
- 方針どおりの対応ができなかった要因としては、「人材不足」、「天候の影響」との回答が多かった。

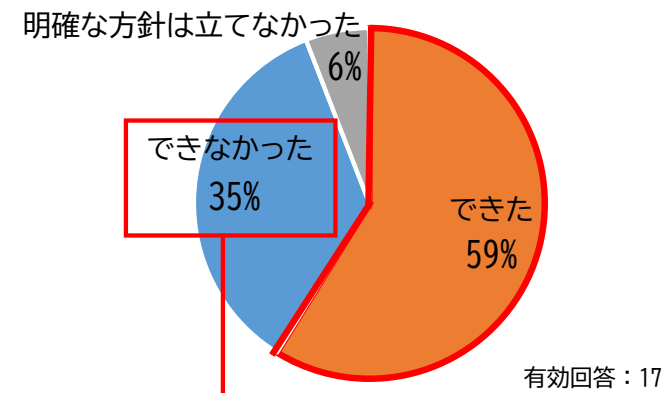
○ 直近の原木価格動向に対する所感



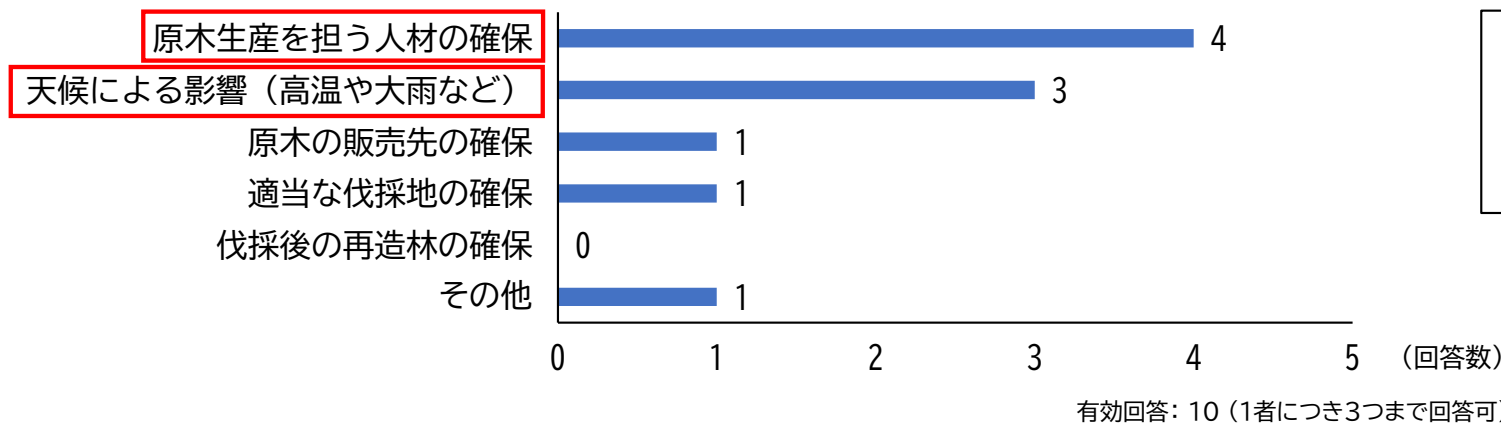
○ 直近の価格動向を踏まえた供給方針



○ 方針のとおり原木供給できたか



○ 方針のとおり原木供給ができなかった要因



「その他」の主な内容
・原木運搬用のトレーラーが確保できなかった
等

※ いずれも素材生産事業者 (17者) からの回答

2 国産原木の需給見通し (2) 今後の見通し

- ① 伐採量：全国的に横ばい傾向
- ② 出荷量：九州がやや増加、その他の地域は横ばい傾向
- ③ 原木販売価格：北海道がやや低下、その他の地域は横ばい傾向

① 伐採量 有効回答： 17（素材生産事業者からの回答）

全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
→	→	→	→	→	→	→	→

② 出荷量 有効回答： 17（素材生産事業者からの回答）

全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
→	→	→	→	→	→	→	↗

③ 原木販売価格 有効回答： 17（素材生産事業者からの回答）

全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
→	↘	→	→	→	→	→	→

※ 矢印の表示は令和 6 年 12 月に対する以降 3 か月程度の動向

↑：増加・上昇
↗：やや増加・やや上昇
→：横ばい
↘：やや減少・やや低下
↓：減少・低下
－：評価無し（該当無し、回答数不足等）

3 国産材製品の需給見通し

- (1) 製材品：出荷量、販売価格とも、北海道ではやや減少・低下傾向、その他の地域は横ばい傾向
- (2) 集成材：中部の出荷量はやや増加傾向、北海道、四国、九州では出荷量、販売価格ともに減少・低下傾向
- (3) 合板・LVL：出荷量、販売価格ともに、地域によってばらつきはあるものの、横ばい～やや減少・低下傾向
- (4) チップ：出荷量は四国を除きやや減少傾向、販売価格は横ばい傾向

(1) 製材品 有効回答：20（木材加工事業者のうち製材品を取り扱う事業者からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
出荷量	→	↘	→	→	→	→	→	→
販売価格	→	↘	→	→	→	→	→	→

(2) 集成材 有効回答：6（木材加工事業者のうち集成材を取り扱う事業者からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
出荷量	↘	→	→	—	↗	—	↘	↘
販売価格	↘	↘	→	—	→	—	↘	↓

(3) 合板・LVL 有効回答：13（木材加工事業者のうち合板・LVLを取り扱う事業者からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
出荷量	↘	→	→	↘	→	↘	—	↘
販売価格	→	→	→	↘	↘	→	—	↘

(4) チップ 有効回答：8（木材加工事業者のうち木材チップを取り扱う事業者からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
出荷量	↘	—	↘	—	↘	—	↗	→
販売価格	→	—	→	—	→	—	→	→

4 木材流通事業者における需要見通し

- (1) 国産原木：入荷量は近畿中国、四国でやや減少、仕入価格は東北、九州で上昇傾向
- (2) 国産材製品：入荷量、仕入価格とも地域によってばらつきはあるものの、概ね横ばい傾向

(1) 国産原木

有効回答： 入荷量 47、仕入価格 40 （木材流通事業者（市場、共販所、商社、問屋、材木店）からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
入荷量	→	→	→	→	→	↘	↘	→
仕入価格	→	→	↗	→	→	→	→	↗

(2) 国産材製品

有効回答： 入荷量 27、仕入価格 28 （木材流通事業者（市場、共販所、商社、問屋、材木店）からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
入荷量	→	→	→	→	→	↘	↗	→
仕入価格	→	→	↗	→	→	→	↘	→

5 木材利用事業者における需要見通し

- (1) 国産原木：全国的に入荷量はやや減少傾向、仕入価格はやや上昇傾向
- (2) 国産材製品：入荷量は全国的に横ばい～やや減少、仕入価格については全国的にやや上昇傾向

(1) 国産原木

有効回答： 入荷量 13、仕入価格 13 （木材利用事業者（プレカット、建築・建設、製紙・パルプ、木質バイオマス）からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
入荷量	↘	→	→	↘	↓	→	↘	→
仕入価格	↗	→	↗	↗	→	→	↗	→

(2) 国産材製品

有効回答： 入荷量 24、仕入価格 25 （木材利用事業者（プレカット、建築・建設、製紙・パルプ、木質バイオマス）からの回答）

	全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
入荷量	→	→	↘	↘	→	→	→	→
仕入価格	↗	→	↗	↗	↗	→	↗	→

6 苗木の供給見通し

北海道、東北、九州はやや増加、四国はやや減少傾向

苗木出荷量 有効回答： 20（苗木生産事業者からの回答）

全国	北海道	東北	関東	中部	近畿中国	四国	九州
→	↗	↗	→	→	→	↘	↗

7 木材需給の動向や見通しに関する地区別協議会構成員からの主な意見

■ 各地区の動向

		主な需給動向
共通		・ 原木：昨年夏から出材不足。今後も急な増産は難しいとの意見あり。C・D材が下支えし、当面、価格は強含みの見込み。 ・ 製品：住宅需要の低迷により、引き続き厳しい状況。改正建築基準法の影響も懸念。製材価格は底を打ったとの意見あり。 ・ 輸入：国内在庫は減少傾向で、今後も当面は輸入量は増えない見込み。
地区別	北海道	・ 輸入材入荷量の減少、東北からスギ丸太の移入などにより、道内の需給バランスに変化。 ・ 合板用丸太を出荷している地域は、価格低下により伐り控え。 ・ カラマツの構造材への利用は進んでいるが、トドマツは集成材や羽柄材利用にとどまっている。
	東北	・ 昨年の出材量の落ち込みは、虫害の影響による工場側の仕入れの後ろ倒しに素材生産側が対応できなかったことによる。 ・ 広葉樹価格が値上がり傾向で出材も増えている。夏場のスギ需要の落ち込みにより広葉樹伐採ヘシフトの動きもあった。 ・ 市場はB材が多くA材が少ない状況で苦労している。
	関東	・ 雪の影響で1月から原木入荷が思わしくなく、日に日に工場の原木在庫が減っている。 ・ 住宅需要が減少したが、非住宅需要の増加により、木材需要について、トータルではそれほど減っていない。 ・ チップについては製材工場からの原料供給が減少しており、取り合いになっている。
	中部	・ 施業地の奥地化や雪の状況により、1月に入り原木が集まらず、工場の原木在庫はゼロに近い。 ・ 震災復興の影響もあり、北陸では製材、プレカット事業ともに稼働状況は良好。 ・ グループ系列での住宅販売実施は前年比1割減の見込みで、プレカット工場の加工棟数も1割減。来年度も厳しい予想。
	近畿 中国	・ 原木価格について、スギ、ヒノキともバイオマスや輸出需要が下支えしており、今後も強含みで推移する見込み。 ・ 昨年夏以降の原木出材不足は、素材生産事業者が需要減により立木購入を控えて間伐や除伐等にシフトしたことが一因。 ・ 輸入材について東京埠頭の在庫は減少傾向にあるが、国内メーカーは国産材で賄えると気付いて焦っていない様子。
	四国	・ 製材所の受入調整や安値での買取りにより、素材生産者の伐採意欲が低下し、低質材の集荷も低調。 ・ 製品の荷動きは昨年4月から秋口にかけて鈍かったが、最近戻ってきた。ヒノキ製品の生産が間に合わない状況。 ・ 集成材の生産量は安定しているが、その分、無垢材の販売量は落ちている。
	九州	・ 原木価格は横ばい。施業地の奥地化や小規模化により出材量が減っている。 ・ 改正建築基準法はリフォームにも影響。リノベーションを多く扱っている事業者は半分以下の施工率になるのではないかと懸念。 ・ 世界的に原木不足で日本向けは減る見込み。北米情勢は不透明だが、欧州の情勢によっては再び木材不足の可能性も。